翠会

金沢女子大学
金沢学院大学同窓会

［会報誌］

The Bloom 2020

翠会からのお知らせ
2020 年 翠会総会・講演会・総会は
中止になりました。

翠会総会・懇親会報告
2019 年総会参加者インタビュー

第 19 回記念講演
演　題「決してあきらめない」
講　師　舞の海秀平氏

翠会会長あいさつ
下置（旧姓　宇野）宏子

学院大ニュース
ホームカミングデイレポート＆第５回告知
翠会役員紹介
懐かしのあの場所

編集後記

翠会会長あいさつ

翠会会長
第１期卒　**下置**（旧姓 宇野）**宏子**

翠会会員の皆様、お元気でお過ごしでしょうか。ご無事でいらっしゃいますでしょうか？今年はまれに見る暖冬でしたが、年明けからジワジワと新型コロナウィルス感染症の脅威が我々に襲いかかり、３月からは学校も一斉休校になり、緊急事態宣言も発出され、外出自粛、飲食店の休業要請、各種イベントの開催中止など、これまでに体験したことのない見えない恐怖と戦ってまいりました。この会報が、皆様のお手元に届く頃には、なんとか収束していることを祈るばかりです。

さて、今年度は新学部も増え、新入生は850名を超えました。希望に胸膨らませて入学してきた新入生は最初の一週間だけ登校し、その後は遠隔授業となり、とてもかわいそうなスタートになりました。我々、同窓会としても何か力になれることはないか、役に立てることはないかと、今後も引き続き考えて行動していかなくてはと思っています。

毎年８月の同窓会総会・講演会・懇親会は、今回は開催を見送ることに致しました。大変残念ですが、次回開催時には、たくさんの同窓生の皆さんとお会いできるように、準備をしていきたいと思います。同級生だけでなく、先輩後輩の輪をもっと広げていくことで、翠会がもっと成長していけたらと思っております。

翠会会員の皆様が健やかにお過ごしになれますようにお祈りし、ご挨拶とさせていただきます。

翠会総会報告

翠会総会は、2019年８月４日（日）金沢東急ホテルにて行われました。平成30年度事業報告及び収支決算承認について、令和元年度事業計画及び収支予算決定について等の議案があり承認されました。

事業報告の中では、2019年３月31日（日）時点で、金沢女子大学・金沢学院大学の卒業生が10,850名になったことが報告されました。卒業生の増加とともに、関東在住の卒業生も増えているということで、卒業生が同窓会として活動できる場として関東支部の設立について報告され、同日立ち上げました。

また､任期満了に伴う役員改選について報告があり承認を得ました｡(７ページ参照)

総会記念講演を挟み、同ホテルで懇親会がおこなわれました。参加者は大学の先生をはじめ、新卒の同窓生から、卒業して数年、学生時代からの絆を大切にして今でもつながっているという同窓生、それとは逆に20年以上の時を経て卒業以来、初めて先生に会いに来たという同窓生まで、幅広い年齢層が集いました。秋山理事長からは、卒業生の活躍で大学の知名度・存在感があがっているという話がありました。水洞副学長からは、大学祭と合わせて開催されるホームカミングディについて、同窓会の場所として利用してほしいと告知もありました。懇親会参加者はそれぞれに講演の感想や意見交換をしたり、近況報告をしたりして大いに盛り上がりました。

懇　親　会

● 2019 年総会参加者インタビュー ●

山下　利子（旧姓 野岸）さん（右側）

文学部日本文学科（平成９年卒 第７期）　富山県富山市

しばらく海外に住んでいて、ちょうど日本に帰った頃に会報が届きました。大学のころを懐かしく思い、また、舞の海さんのことも好きだったので参加しました。舞の海さんは、穏やかに面白いことをいう方だと思いました。また、テレビで見るより大きくがっちりしているように感じました。伝説の取組の話は楽しかったです。懇親会では、先輩にご挨拶できたし、秋山先生（左側）をはじめ、懐かしい先生にも会えました。嬉しかったです。

奥田　雅子さん（右側）

美術文化学部美術工芸科（平成 17 年卒 第 15 期）　石川県金沢市

初めて総会に出てみて、組織や総会がきちんとしていると思いました。（翠会役員の）加藤 彩（旧姓 野中）さん（左側）に誘われて、予定を空けてきました。舞の海さんの話を聞いて、どんなことに従事していても視野が狭くなることはなく、ユーモアの精神や相手の立場から考えることなど、いろいろ学べるのだということが心に残りました。

橋本 のはらさん（左側）

美術文化学部情報デザイン学科（平成 25 年卒 第 23 期）　石川県白山市

今日は先輩たちに誘われて、懇親会から参加しました。思っていたよりもラフな会でよかったです。学生時代にイベントや企画などをがんばっていました。そのときに出会った仲間と今でもつながっていて大切にしたいと思っています。今ある縁を大切にしていきたいと思います。

寺西　一平さん（右側）

経営情報学部情報ビジネス学科（平成 24 年卒 第 22 期）　石川県野々市市

（翠会役員の）須貝 友貴さんに誘われて、講演会から参加しました。講演の話は、ユーモアがあって聞きやすかったです。もっと堅い話だと思っていました。また、参加人数が多くて、驚きました。

「決してあきらめない」

舞の海秀平氏

2019年度の講演会は、講師に元力士の舞の海秀平氏をお迎えし「決してあきらめない」という演題でお話しいただきました。会場には相撲ファンは勿論、野球やほかのスポーツに励む大学生や舞の海氏の話をぜひ聴きたいという大勢の観客が集まりました。舞の海氏が決してあきらめなかった相撲の世界の話、そして、相撲の解説やメディア、タレントとしての仕事の話もありました。来場者は静かにうなずいたり、ときに手を叩いて大笑いしたりしながら聴き入りました。

相撲の話をするのでみなさんのためになる話はしません、という言葉から始まった講演でしたが、誠実な人柄がにじみ出る淡々と語る口調に一同引き込まれていきました。舞の海氏が大相撲の門を叩いたとき、すでに就職の内定をもらっていたそうです。にも関わらず大相撲をあきらめなかった、当時の切実な思いを聞かせていただきました。大好きな相撲の世界に行こうかどうかと考えたとき「人間は死と隣り合わせで生きている」という考えに行きついたそうです。そして、「一度しかない人生、今しかできない、今やりたいことに挑戦したい」という強い決意がこみあげてきて、大相撲への挑戦を選んだということでした。

そして、その挑戦は平坦な道のりではなく、肉体的にも精神的にも計り知れない苦痛があったようです。当時の規定により身長が足りなくて一度試験に落とされるもきらめず、医師の協力もありシリコンを入れるという方法で再度挑戦するのでした。その手術や術後の痛みは相当なものだったそうです。それでもあきらめず、大相撲を目指したという舞の海氏の心の強さに一同驚かされました。

二度の挑戦で試験にパスした舞の海氏は、それまでのことを「本当に相撲の世界で生きていく覚悟があるのかどうかを試されたのだ」と後になって思ったそうです。だから、このとき痛いたいへんな思いをして必死に努力したことを後悔していないのでした。そして、勝つか負けるかの格闘技としてだけではなく、神事から始まり日本人のすばらしい感性・知恵・習慣により、所作や武士道精神・色彩美などを取り入れた国技として格式高い大相撲の世界に入ったのでした。「勝っていばるな、負けてひがむな、相手に拍手を送る気持ち、相手を敬う気持ち」、また、師匠のために部屋のために恩を返したい、という気持ちで相撲に向き合ったそうです。

そして舞の海氏は、その後もあきらめない精神で活躍していったわけです。舞の海氏は、自分は真面目でなくへそ曲がりだからあきらめなかった、人生は考え方で変わる、犠牲もありながら人生はちょうどよくいくものだ、とこれまでを振り返りました。そして、笑うのは体に良いと聞いたので、悩むのはやめ、笑えることを探し、ある程度のいい加減さを持って生きていかれたら、とこれからの人生についても語りました。

相撲の世界のみならず、舞の海氏自身の人としての生き方を本音で語っていただき、また、日本の国技としての大相撲を改めて知るきっかけとなった講演に、来場者は大きな拍手を送りました。

講演会講師紹介　舞の海秀平氏（まいのうみ しゅうへい）

青森県西津軽郡鰺ヶ沢出身　日本大学経済学部出身
1990年５月　出羽海部屋入門。
同月、初土俵（幕下付出し）
1991年３月　新十両（四股名：舞の海）
1991年９月　新入幕
1999年11月　引退
1968年2月17日生まれ。日大相撲部にて活躍。

山形県の高校教師の内定が決まっていたにもかかわらず、周囲の反対を押し切って、夢であった大相撲入りを決意。新弟子検査基準（当時）の身長に足りなかったため、頭にシリコンを入れて新弟子検査に合格。角界最小の身体ながら、「猫だまし」、「八艘飛び」などファンを驚かせる数々の技をくりだし、“技のデパート”の異名をとる。1999年11月の引退までに、技能賞を5回受賞。

現在は、NHK大相撲解説者などをつとめるほか、テレビ・ラジオなど幅広く活躍中。

生まれ故郷の青森県鰺ヶ沢町の「ふるさと大使」
2011年より近畿大学経営学部客員教授に就任。

現役時代の戦績
◇ 技能賞受賞　5回
◇ 生涯戦歴　385勝418敗27休
◇ 幕内戦歴　241勝287敗12休
◇ 最高位小結
◇ 得意技左四つ・下手投げ

主な著書
・『大相撲で解く「和」と「武」の国・日本』（KKベストセラーズ）2017年7月発売
・『テレビでは言えない大相撲観戦の極意』（ポプラ社）2016年12月発売
・舞の海秀平と学ぶ『知れば知るほど大相撲』（徳間書店）2016年7月31日発売※監修
・『はじめての大相撲』（岩崎書店）

メディア
日本テレビ『ぶらり途中下車の旅』（隔月）、テレビ東京『虎ノ門市場』に出演中。

ホームカミングデイレポート

2019 年 10 月 19 日（土）の清鐘祭初日に 5 号館 1F 食堂にて第 4 回ホームカミングデイが行われました。学院大自慢のおいしいお料理が参加者にふるまわれ、本学吹奏楽部による演奏や金沢リコーダー・コンソートによる合奏が行われました。

今年もやります！ 第5回 金沢学院大学・短期大学ホームカミングデイ

旧交を温め交流を深めて頂ける楽しいひとときとなります。
当日は清鐘祭初日でもあり、にぎやかな母校へ。お誘い合わせの上、お気軽にお越し下さい。

2020 年 10 月 17 日（土）13 時～ 15 時／5号館 1F 食堂　＊参加無料（開催予定）

＊参加申込み

8 月下旬に金沢学院大学 HP 上に改めて開催案内を UP する予定です。申込欄に記載送信下さい。但し事前申込のない当日参加も OK です。或いは、下記宛へのご連絡でも結構です。お名前、卒業年次、学科等名、連絡先（📱／📞）等をお伝え下さい。問い合せ先としてもご利用下さい。

＊連絡・問い合せ先（幹事教員：誰にでも構いません）：

水洞　幸夫（文）076-229-8927/suido@kanazawa-gu.ac.jp
田中　晴人（経情）076-229-8902/mtanaka@kanazawa-gu.ac.jp
飯田　栄治（芸術）076-229-8774/e-iida@ kanazawa-gu.ac.jp
藤原　勝夫（人間健康）076-229-8888/fujikatu@ kanazawa-gu.ac.jp

学院大ニュース

第 50 回明治神宮野球大会出場

2019 年 11 月 16 日（土）、第 50 回明治神宮野球大会が東京の神宮球場で行われました。金沢学院大学は九州産業大学に ８－５で勝利し、準々決勝に進みました。

会場は野球部の皆さん、学院大学及び学院高校の吹奏楽部の皆さんも駆けつけ、応援していました。

なんと皆さん、金沢を朝４時に出て来たそうです。

当初０－４で先行されていたこともあり、不安なスタートでしたが、４回裏で３点、５回裏で５点と逆転し、会場は大盛り上がりでした。

なお、2019 年 11 月 18 日（月）に準決勝が行われ、関西大に０－５で敗れるという残念な結果に終わりましたが、明治神宮野球大会において、北陸大学連盟勢としては 34 年ぶりの勝利という快挙となりました。

また、金沢学院大学としては 19 年ぶり、２回目の出場とのことです。

なお、野球部の快挙に対し、2019 年 12 月 10 日（火）に下置会長から秋山理事長に同窓会翠会から寄付金が手渡されました。

＜明治神宮野球大会ついて＞

2019 年に第 50 回の節目を迎えた明治神宮野球大会は、1970 年 11 月に明治神宮鎮座 50 年を記念して第１回大会が開催され、これまで幾多の名選手達が日本一を争い熱戦を繰り広げてきました。

本大会は、「大学の部」は『全日本大学野球選手権大会』と共に大学日本一を決める大会として、また、「高校の部」に於いては春の選抜高等学校野球大会の出場選考に「神宮大会枠」が設けられ、多くの野球ファンが注目する大会となりました。

学校法人金沢学院大学第１回学園音楽祭開催

2020 年２月 11 日（火・祝）、北國新聞赤羽ホールにて「第１回学園音楽祭」が開催されました。金沢学院大学・短大・高校の合唱、邦楽、吹奏楽、軽音楽、和太鼓、ストリートダンス各部に所属する部員（出演者約 200 名）が一堂に会しての舞台発表でした。満員の観衆の中、バラエティーに富み、また完成度の高いステージ発表が約５時間繰り広げられ、各部は大きな拍手を受けていました。

賛助出演のライブステージでは、本学 OB のポセイドン・石川氏（2005 年美術文化学科卒）が、童謡からポップスまで華麗なピアノテクニックとユニークなアレンジを披露しました。原曲と印象を異にする世界観と表現力で観衆を魅了しました。

森ひかる選手、東京オリンピックへ

人間健康学部スポーツ健康学科３年の森ひかる選手が2019年12月１日（日）、東京・有明体操競技場で行われた世界選手権の女子個人決勝で55・860点をマークし、五輪種目で男女を通じ、日本勢として史上初の世界一に輝きました。同時に森選手は、決勝に進出した日本勢最上位を五輪代表とする日本体操協会の選考基準を満たし、来年の東京五輪に向けて、金沢学院大学初の五輪切符を手にしました。

森　ひかる選手について

14歳で2013年全日本選手権を史上最年少で制覇。2018年はアジア大会（ジャカルタ）で銀メダル、2019年の世界選手権ではシンクロナイズドで日本女子初の金メダル。159センチ、51キロ。21歳。東京都出身。

島清恋愛文学賞への寄付

2014年から金沢学院大学が運営を継承している島清恋愛文学賞ですが、翠会から2019年度分として10万円の寄付を行いました。

翠会役員紹介

下記のとおり、2019年８月の総会にて翠会役員が改選・承認されました。

会長
下置　宏子（旧姓　宇野）　文学部
平成３年卒 第１期

副会長
吉田　千里（旧姓　岡田）　文学部
平成８年卒 第６期

小村　秀明　経営情報学部
平成11年卒 第９期

星野　　寛（旧姓　小林）　文学部
平成11年卒 第９期

理事
奥田　麻理（旧姓　丹羽）　文学部
平成３年卒 第１期

青柳　貴子（旧姓　浅野）　文学部
平成３年卒 第１期

松本　邦子（旧姓　本田）　文学部
平成３年卒 第１期

倉　　薫（旧姓　助実）　文学部
平成７年卒 第５期

大内　栄映（旧姓　大澤）　文学部
平成９年卒 第７期

福井　尋一　経営情報学部
平成11年卒 第９期

山﨑　貴文　経営情報学部
平成12年卒 第10期

梅田　英範　文学部
平成13年卒 第11期
新任

池田　勇輝　経営情報学部
平成14年卒 第12期

奥井　伸吾　文学部
平成14年卒 第12期

西尾沙織里（旧姓　山﨑）　文学部
平成15年卒 第13期

加藤　　彩（旧姓　野中）　美術文化学部
平成17年卒 第15期

田中　頌吾　経営情報学部
平成21年卒 第19期

芝本　明奈（旧姓　松谷）文学部
平成23年卒 第21期

山城　卓也　文学部
平成23年卒 第21期

菊田いづみ（旧姓　濱中）　美術文化学部
平成25年卒 第23期

監事
猪又　俊大　文学部
平成23年卒 第21期

須貝　友貴　文学部
平成26年卒 第24期

新　任　理　事

梅田　英範
文学部　平成13年卒 第11期

2020年総会について

本年は新型コロナウイルス感染症の影響のため、翠会総会・講演会・懇親会は中止となりました。
なお、本年度予算や決算の確認は、役員会にて代行致します。

第２回　懐かしの場所

解体されたパレットは、2019年10月9日（水）にアルビス･笠舞店としてリニューアルオープンしました。

それでは今回は学内掲示板を探訪したいと思います。今ではメールやキャンパスメイトというWebで休講案内などをＰＣやスマホで見ることが出来るそうですが、私（第12期）の頃の休講案内などは掲示板のみでした。

掲示板を見に行く途中に友人に会うと「掲示板見た？」が合言葉でした。

今思うと、友人とのコミュニケーションにも一役買っていたのだなと思います。

ただ、大雪の日に頑張って行ったのに休講だった…ってこともありましたので、今は家で休講案内が見ることが出来るのは少しうらやましいですね。

それでは、皆様も久々に行ってみたいところやどうなったか知りたい場所などあれば教えてください。取材に行ってきます。

ご意見、ご感想は下記のアドレスまでいただけると幸いです。

文学部

経営情報学部

芸術学部

人間健康学部（健康栄養学科）

編集後記

みなさま、いかがお過ごしでしょうか。

今年の３月あたりから新型コロナウイルス感染症の影響で、仕事がテレワークになったり、臨時休業になったり、大騒ぎでした。本原稿の執筆時（５月上旬）は緊急事態宣言が延長され、まだ新型コロナウイルス感染症の収束は見えていませんが、皆さんの手元に届くころには収束していればと思います。

さて、みなさまとはこの会報と年１回の総会が接点になっているわけですが、我々役員はこの会報の企画・制作、総会のプランなど、翠会の運営に関して年４回ほど会合を行っております。もし、講演会のリクエストや会いたい先生、会いたいお友達等ありましたら、下記アドレスまでご連絡いただければ幸いです。

今年の総会は残念ながら中止になってしまいましたが、記念講演はチコちゃんの声でおなじみの木村祐一さんをお呼びする予定でした。最後になりましたが、発行するにあたり、たくさんの方々にご協力いただきましたことをこの場をお借りしてお礼申し上げます。

● ご意見、ご感想、お問い合わせはこちらまで。
hoshino@kanazawa-gu.ac.jp

● 翠会ホームページはこちら、住所変更もこちらで受け付けております。
http://midorikai.jp/

● 翠会 Facebook はこちら、会報ではお知らせ出来ないタイムリーな情報をお知らせしています。
https://ja-jp.facebook.com/midorikai.kg

翠会ホームページ　翠会 facebook

■発 行 日　2020年7月　　■発　　行 「翠会」 〒920-1392　石川県金沢市末町10
■編　　集　倉　薫（第５期：文学部）、池田　勇輝（第12期：経営情報学部）